

国語科学習指導案

〇〇〇立〇〇小学校

指導者 〇〇 〇〇

1. 日時 令和元年 〇月〇日

2. 場所 6年〇組教室

3. 学年・組 第6学年〇組

4. 単元名 一番強く感じた宮沢賢治ワールドを朗読で表現しよう

5. 使用教材 ・「イーハトーブの夢」「やまなし」(光村図書6年)
・「雪わたり」「虔十公園林」「セロ弾きのゴーシュ」「水仙月の四日」

6. 単元目標

- ・作品の特徴や作者の思いをとらえ、感じたことが伝わるように朗読することができる。
(知・技 ケ)
 - ・すぐれた表現を味わいながら作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の考えをまとめることができる。(読むこと オ)
 - ・比喩などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技 ク)
- 作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の感じたことを朗読で表現するために進んで作品を読んだり、読みの工夫を考えたりしている。(学びに向かう力等)

7. 教材観

本単元で学習する作品や、その作者の生き方は、人間の内面に深く関わってくるような事柄で満たされている。教材「イーハトーブの夢」からは、作者の信念、目的をもって生き抜くという強い意志と行動、そして、そこから生み出された作品が長く人々の共感をよんでいることを知ることができる。

宮沢賢治の作品は、擬声語・擬態語、造語、色彩表現、比喩などの賢治独自の言葉の美しさ、不思議さ、魅力にあふれている。分からない言葉も多く出てくるが、自分なりの解釈を朗読で表現するのに適した教材であると考ええる。

児童は初めて朗読に取り組むため、全員が共通して朗読の仕方を学ぶ教材として「やまなし」を扱う。その後、「やまなし」で学んだことを生かして朗読を行う活動をする際に、宮沢賢治の作品の中でも内容が分かりやすく、「イーハトーブの夢」とのつながりを生かし、児童が作者の思いを捉えやすい作品として「雪わたり」「虔十公園林」「セロ弾きのゴーシュ」「水仙月の四日」の四作品を扱う。

8. 児童観 (略)

9. 指導観

(1) 単元を通してつけたい力

作品の特徴や作者の思いを捉え、感じたことが伝わるように朗読することができる力

作者の生き方や考え方，思いや理想を知り，作品の優れた表現を味わい，情景を具体的に思い描いたり想像したりすることで，自分なりの思いや考えを持ち，感じたことが伝わるように朗読できる力を育成できると考える。

（２）言語活動とつきたい力のつながり

本単元で取り組む言語活動は「朗読のレコーディング」である。小学校学習指導要領解説国語編（平成 29 年度告示）では，朗読とは，「読者として自分が思ったことや考えたことを踏まえ，聞き手に伝えようと表現性を高めて，文章を声に出して読むこと」と示されている。朗読をするためには，作者がどのように生きてきたのかを知り，その生き方にふれ，作者の感じ方や考え方を想像することが大切である。さらに，子どもたち同士の交流などを通して，作品を深く知ること，自分なりの解釈をもつことができる。

（３）つきたい力をつけるための単元計画について

単元の目標を達成するために，第三次では「宮沢賢治ワールドを朗読で伝えよう」という言語活動を設定した。

第一次では，単元の見通しを持って主体的に学べるようにするため，第三次におこなう言語活動のイメージを子どもたちが明確に描けるようにする。また，朗読するためには，どのような学びが必要か，子どもたち自身が考える。宮沢賢治の生き方や考え方，思いや理想などを想像することが必要であることに気づき，そのために「イーハトーブの夢」を読み，宮沢賢治ワールドに迫る。

第二次では，自分で選ぶ作品（宮沢賢治作品）の朗読イメージが描けるように，共通教材「やまなし」を使って，表現の工夫を考え，朗読にチャレンジする。その際，子どもたち同士の交流を通して，宮沢賢治ワールドを一番感じる自分なりの考えを深めるという課題意識をもった活動を大切にする。

第三次では，第一次・第二次で培った力を十分発揮して朗読の仕方を考える。そして，仲間と高め合いながら，自分史上最高の朗読レコーディングに挑む。発表者は，聞き手に対し「どこを」「どのように想像し」「どう読むのか」を伝えてから読む。聞き手はその視点に沿って「どう感じたのか」を発表者に伝える，という単元計画を立てた。

（４）昨年度の研究授業での学びを活かして

本年度は，「やまなし」を朗読することで完結せず，「やまなし」の朗読でつけた力を活かし，自分の選んだ宮沢賢治の本を通して感じたことを朗読で表現することに取り組んだ。

10. 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
作品の特徴や作者の思いを捉え，感じたことが伝わるように朗読している。[知・技 ケ] 比喩などの表現の工夫に気づいている。[知・技 ク]	「読むこと」 優れた表現を味わいながら作品の特徴や作者の思いを捉え，自分の考えをまとめている。[読む オ]	作品の特徴や作者の思いを捉え，自分の感じたことを朗読で表現するために進んで作品を読んだり，読み方の工夫を考えたりしている。 [学びに向かう力等]

11. 単元の指導と評価の計画

次	時	全	学習内容	主な評価規準〔観点〕
一	1	1	単元の見通しを持つ。	作品の特徴や作者の思いを捉え、自分で感じたことを朗読で表現しようとしている。〔主〕（ノート）
	2	2	「イーハトーブの夢」を読み、宮沢賢治ワールド（理想・考え・思い）を想像する。	「イーハトーブの夢」を読み、宮沢賢治について、自分なりの考えをまとめている。〔読 オ〕（ノート）
二	1	3	「やまなし」を読み、感じたことを伝えるために朗読したい場面を選び、考えをまとめる。	すぐれた表現を味わいながら作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の考えをまとめている。〔読 オ〕（ノート）
	2	4	「やまなし」を朗読するために読みの工夫を考える。	比喻などの表現の工夫にきづいている。〔知・技ク〕（ノート） 作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の感じたことを朗読で表現するために考えをまとめている。〔読 オ〕（全文プリント）
	3	5	「やまなし」を使って、一番強く感じた宮沢賢治ワールドを朗読で表現する。	作品の特徴や作者の思いを捉え、感じたことが伝わるように朗読している。〔知・技ケ〕（全文プリント・ノート）
	4	6	宮沢賢治ワールドを朗読で表現するために、自分が読みたい本を選ぶ。	作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の感じたことをもとに自分の選みたい本を選び、理由をまとめている。〔読 オ〕（ノート）
	5	7 本時	自分が選んだ本で朗読したい場面を決め、朗読にチャレンジする。	すぐれた表現を味わいながら作品の思いや作者の思いを捉え、自分の考えをノートにまとめている。〔読 オ〕（ノート）
三	1	8	自分が選んだ本で朗読を練習し、レコーディングのリハーサルをする。	作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の感じたことを朗読で表現している。〔知・技ケ〕（動画・全文シート）
	2	9	自分が選んだ本の朗読をより良いものにするために、練り上げをする。	作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の感じたことを朗読で表現している。〔知・技ケ〕（全文シート・ノート）
	3	10	自分の選んだ本の朗読レコーディングをする。	作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の感じたことを朗読で表現している。〔知・技ケ〕（ワークシート・ノート・録音データ）
	4	11	レコーディングした朗読を聞き合い、友だちの工夫や良さに気づく。	よりよい朗読するために、友だちの朗読の工夫や良さに気づき、まとめている。〔知・技ケ〕（ワークシート）

12. 本時の展開

(1) 本時の目標

すぐれた表現を味わいながら作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の考えをまとめることができる。[読むこと オ]

(2) 本時の評価規準

すぐれた表現を味わいながら作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の考えをまとめている。[読むこと]

(3) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
5	自分の朗読したい場面を確認する。	- 同じ本を選んだ人でグルーピングしておく。 - 自分の感じた宮沢賢治ワールドと朗読したい部分が全員決まっているか確認し、黒で囲ませる。	
	自分の選んだ本で朗読したい場面を決め、朗読にチャレンジしよう		
10	本時の学習の見通しを持ち、本時の自分のめあてを書く。	- 交流モデルを提示し、本時の交流の見通しをもたせる。 - 本時の中で朗読したい部分の修正が可能であることを確認する。	
15	自分の選ぼうと思っている場面に読みの工夫を書き込む。	個人の時間を確保した後は、必要に応じてペアやグループで交流してよいことを伝える。	優れた表現を味わいながら作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の考えをまとめている。 [読むこと オ] (ノート)
10	- 朗読したい場面を決定し、全文シートを赤で囲む。 - 朗読したい部分を選んだ理由をノートに書く。	一番強く感じた宮沢賢治ワールドについて書かせるために、(生き方・理想・思い・考え)などの語句を使って書かせる。	
5	- 朗読したい場面で考えた読みの工夫で、確かめたい部分を声に出して朗読する。 - 個人で立てためあてに対して振り返る。	場面全体ではなく、特に朗読にチャレンジしてみたい部分を選び、声に出させる。	